

日本国の岐路

令和7年2月17日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

世界情勢は、グローバリズムという潮流へ、日本を組み込むものである。世界が新たな未来を求めるとき、日本はその選択を得る。これは最後の審判である。

ダボス会議において、リークされる現実、世界の決定における唯一の真実である。それら現実に対して日本が独自選択と求めることは、これら世界の潮流に対して、毅然とその世界の未来を提示するものである。

世界の現実に対して、それに他向かうことは、新しい世界を提示し、その未来を模索するものである。

世界の日の出は、唯一それに寄るものである。これらは世界が新たな対立の未来を求めるとき、世界の2分化に対して、日本が新しい未来を提案することは可能なのである。

これらが第3次世界大戦を求めることに対して、平和と融和における新しい世界を提案することは可能なのである。

トランプアメリカ大統領が求める新しい世界は、彼らの理想と夢なのであり、日本は自らの選択において異なる未来を選択することはできるはずである。

これらは世界の現実を全く変化させるものであり、それら変化が世界を奪うことは可能性において存在するのである。

また宇宙星人が自らの選択と決定を地球において有することは、それらとの連携が世界における新しい未来を実現することは可能性において存在するのである。

これらが既存世界の現実へ新しい未来を模索することへ存在する唯一の可能性である。その他においては、現実に隷属し、それらに従うことが唯一の選択なのである。

日本がこれに反したとき、もっともな友好国は中国となる。それら連携が新しい世界と未来を行うことは必ず可能なのである。それら現実の拡大において未来を行うことは可能性において必ず存在するのである。